

# Photo 俳句



2012-09 卷01

陽香庵百合樹

**Photo 俳句 2012-09 卷 1**

<目次>

百日草

白露

もってのほか（食用菊）

足長蜂

おいしいトマトジュース

秋祭り

金秋

唐黍

生海栗

真夏日（北極熊）

赤トンボ

真夏日（ニシキヘビ）

夕張メロン

夜の秋

狸

生サンマ

曼珠沙華（1）

曼珠沙華（2）

曼珠沙華（3）

秋分

蜘蛛

ジンジャー（生姜）

コスモス

花豆

冬瓜

苦瓜（ニガウリ）

蒲の穂

新米

赤ススキ

コスモス残す

稲刈り

台風（水タンク）

台風(ヤーコン)

台風（コスモス）

台風（堆肥小屋）

台風（トマト覆い）

月見酒

十五夜



- ・ 67歳の手習い初め。俳句をはじめるべく「角川 合本俳句歳時記 第四版」ipad Appb 版を買い求める。
- ・ 下手をカモフラージュする目的で写真付きの俳句にすることにした。
- ・ 俳句は決まりごとや禁句があるそうだが、それだけに、型で陶芸をやるようなもので、新人でもなんとかなりそうだ。
- ・ 先輩諸兄の添削・助言を請う！

- ・ 「山中湖花の都公園」周囲に百日草、コスモス、そばの花が盛りというので出かける。
- ・ 百日草は、10本300円で採花できる。20本で一抱え以上のボリューム。
- ・ 百日草は、7月から11月まで、文字通り100日以上楽しめる花。
- ・ 今回は、有料の花の都公園はパスした。

百日草  
雲に届けと  
競い合い





・日中は

残暑が厳しいけれども、朝晩は涼しくなった。

- ・早朝の畑には、露がおりにて、長靴をはかなければ、ズボンが濡れる。
- ・いろんな野菜の芽がどんどん出ている。
- ・蕎麦の種をネットで購入し、蒔いてみた。発芽率が良くて、きれいに揃った。
- ・蕎麦の花も楽しみだし、蕎麦の実が収穫できたら、どのようにして粉にしようかと、今から悩んでいる。
- ・以前、孫たちから、敬老の日に、蕎麦作り機（タカラのそば打ち名人）を贈ってもらったが、一度使っただけで、うまくいかずに、しまったままになっている。一昨年は、南伊豆（加増野ポーレポーレ）で、蕎麦打ち体験もした。再度、蕎麦打ちに挑戦する目標ができた。

白露のせ  
凜と揃いし  
そば芽かな



- ・ことし、中伊豆体験農園から長者が原農園に移植した食用菊「もってのほか」が咲き出した。
- ・たくさんはいらないが、少しだけ、季節の変化を味わう。
- ・先日、孫から沖縄みやげにもらった「シークワサーぼんず」（販売者＝座間味こんぶZK）をかけて食す。このぼんずが何にも合う優れもの。もう半分しか残っていない。

食用菊  
今宵の肴  
決まりけり

2012-09-16





- ・きゅうり蔓を支柱から剥ぎ取り、繁茂していた雑草を引き抜いたら、雑草にからまっていた足長蜂の巣を揺らしてしまった。
- ・足に激痛がして、蜂の襲撃を知り、逃げる。追ってきた蜂に、さらに腕を刺された。逃げながらシャツを脱ぎ捨て、振り回す。
- ・隣の畑にいた、農作仲間から軟膏を借りて塗るが、夕方になると、腫れが拡大する。土日で、病院が休みだったので、週明けに、病院に行く。医者は、一瞥しただけで、薬を出しておきますとっただけで診察終了。こんなに、腫れていて大丈夫ですかと聞いたかったが、グットこらえて、そのまま診察室を出る。
- ・3日分の薬（軟膏とアレルギー抑制の飲み薬）をいただいて帰った。
- ・その後、一向に腫れは引かず、かえって大きく、そして広がっているようだ。痛みはないが、かゆみが出てきた。
- ・薬が切れた3日後ようやく腫れが引いて、1週間後には小さな痕跡を残すのみとなった。
- ・田舎の医者は蜂刺され患者など、珍しくもないのだろう、診断も正しい。
- ・田舎暮らしは虫と共生することが肝心だ。
- ・夏場はカヤを吊って寝ているが、それでも、時々、ムカデやヤスデが入ってくる。
- ・蜂に刺されたのは小学生以来だった。

雑草を  
抜きて刺されし  
足長巣



- ・秋の気配が訪れたのに、まだ、ミニトマトが毎日、採れている。
- ・昨年は、蜂や蛾に刺されてそこから腐ってしまったので、今年は、網をかぶせ、補虫シートを張り巡らしたのが効を奏したようだ。
- ・露地物のミニトマトは、皮がやや硬くて、そのままでは食べづらい。かといって、湯ムキするのも面倒だ。ジュースでしぼり、少し塩を振って、そのまま飲むのが美味しい！
- ・後作のためには、そろそろ見切りをつけなければならないのだが、昨年から、別に広い畑を借りたので、余裕でそのまま置いている。もうしばらくは、朝採りの、おいしいトマトジュースが飲めるのだ。

まだまだと  
がんばるトマト  
生ジュース





- ・長女の家に行く
- ・用賀で高速を降りる。
- ・三鷹にある長女の家に行く予定時間より早かったので、新婚時代に住んでいたアパートを見るべく迂回する。
- ・目印の大宮八幡宮が秋祭りの最中で、周辺の道がすべて通行止め。回り道したものの、目的地には出られなかった。こんなに道が狭かったかなー。こんなに家が立ち混んでいなかったのに。
- ・長女は大宮八幡幼稚園に通った。運動会で、娘をおぶってのパン食い競争で一番になったっけ。
- ・妻と業界新聞を手折して発送したっけ。
- ・貧しくも、多くの思い出を作った地だった。
- ・その妻も今は亡く・・・

秋祭り  
通行止めで  
道迷い



- ・さっぽろオータムフェスト2012「札幌大通ふるさと市場」が9/14～9/30まで開かれている。
- ・北海道113市町村・団体が参加、秋を彩る旬の味覚が大集合！と銘打っているだけあって、ここだけで、北海道をまるごと味わえるラッキーチャンスだ。
- ・札幌プリンスに泊まったが、東京ドームホテルなら、大通り公園の真ん前だ。次回はこちらにすべし。

金秋の  
ふるさと市場  
まるかじり





- ・はじめて北海道で食べたとうもろこしの美味しさを今でも覚えている。
- ・畑の脇で、売っていた焼きもろこしの甘さに驚いたものだ。
- ・でも、今や、どこでも、甘く美味しいとうもろこしを食べることが出来るので、ありがたさが半減した。
- ・小生も、今年、甘い種類のとうもろこしを栽培したが、肥料不足だったようで、満足に出来なかった。
- ・それでも、鳥が食べにきた。鳥が食べるならおいしかろうと、半端な実入りの小さなとうもろこしを茹でて食べた。意外に美味しかった。
- ・とうもろこしは、朝早く収穫して、すぐに茹でて食べるのが一番美味しいという。自家栽培なら、それが可能なのだ。

唐黍を  
食みて匂いし  
北海道

2012-09-21





生海栗が  
あまりに旨く  
お代わりす

- ・タクシーの運転手が勤めてくれたススキノの「くし路」にて夕食
- ・孫たちが敬老の日を祝ってくれる。
- ・北海の幸に舌鼓。中でも、ウニが絶品
- ・イクラとウニが好物なのだが、痛風には御法度。
- ・イクラは加工品だから何処でも味は変わらないが、ウニは全く違う。余りの美味しさに、お代わりを所望した。もちろん、御酒もすすんだ。
- ・ままよ、今日は痛風に目を瞑ってもらおう。美味しいものをセーブして、長生きするより、短命でもいい、美味しいものを食おう！

生海栗が

あまりに旨く

お代わりす

- ・＜追記＞ついでに、もう一句

痛風も

休むといってる

秋の幸

[2012-09-21](#)



- ・避暑に北海道を選んだのに、今日の暑さは半端でない、なんと、31度の猛暑。
- ・レンタサイクルで向かう予定を急遽変更し、タクシーで、丸山動物園に向かう。
- ・タクシーの運転手も、「例年なら朝晩には、ストーブを焚く時期だ」と、異常気象をなげく。
- ・太り気味の娘は、入り口近くの木陰のベンチへ一目散。湿気が少ないので、木陰に入れば、風が涼しい。
- ・孫と爺ちゃんと、二人で回ることにあひなる。
- ・夏の暑さが苦手の動物が、どこでもダウン。死んだふりしてピクとも動かない。サービスする元気もないのだ。

真夏日や  
死んだふりする  
北極熊





- ・札幌丸山動物園にて
- ・動物園では、時がゆっくり流れる場所がある。
- ・そんな場所のひとつ。鹿園では、暑さを避けて、木陰でまどろむ鹿。びくとも動かない。鹿の角がまるでこの枝のように、赤トンボには映る。

赤トンボ  
枝に模したり  
角の先



真まな夏つび日びや  
置おき物ものになる  
ニシキヘビ

- ・札幌丸山動物園の剥製館は必見。
- ・象の花子をはじめ、歴代の人気動物が骨格標本や剥製になって残されている。
- ・そんな中、ニシキヘビの骨格標本が見事。あいにく写真を撮りわすれた！どなたか、写真をもっている方がいらっしゃたら提供願いたい。
- ・骨だからもう死ぬことはないので、次回訪れた時には必ず撮ろう。
- ・それにしても、円山動物園のサイトに、この骨格標本の写真がないとは……。入園者が撮った写真もネットで見つからない。

真夏日や  
置物になる  
ニシキヘビ

[2012-09-22](#)



- ・札幌場外市場にて。
- ・夕張メロン、ふらのメロンが最盛期。
- ・冷やしたメロンを半月切りにして並べ、1切れ100円で売っていた。備え付けの紙箱に100円硬貨を入れて、直接取って食べる、自動販売だ。
- ・熟れて食べごろのメロンだが、これ以上おくと売り物にならない。もっと小さく切って試供品として提供するのが普通だが、ここでは、試供品より、少し大きめに切って、実費で販売している。ちょっとしたアイデアだ。
- ・紙箱には100円硬貨が山盛り。売れているのだ。私たちも、たくさん食べた。市場内で食事をした帰りにも立ち寄って、さらに食べた。
- ・娘は、そのメロン店の向かいの店で、メロンととうもろこしを買い求め、東京に送っていた。

切りメロン  
百円なりし  
迷いなし





- ・ ネットでおいしいラーメン店を探し、タクシーでススキノへ。運転手にラーメン屋の名を告げると、ラーメン横丁の隣だが、通が好む店だという。
- ・ 行列に並ぶことを覚悟していたが、6時少し前だったせいか、意外にも、店には客はなし。暖簾の店名（ラーメン信月）を確認して入る。娘と孫は、この店一押し塩ラーメンを注文。私は醤油ラーメンを頼む。
- ・ 初めて入るラーメン屋では、一番シンプルで安い、醤油ラーメンを頼むのを自分の信条としている。ゴテゴテと色んなものが入っているラーメンは邪道だし、その店の真の実力もわからない。
- ・ ラーメンの出来上がりを待っているうちに、続々とお客が入ってくる。観光客でなく、地元の常連客風な人ばかりだ。みな、塩ラーメン系を頼んでいる。



- ・ 少し不安になったが、運ばれてきた醤油ラーメンは美味しかった。汁があっさりしているものの奥深いコクがある。麺は小生好みの縮れ細麺だ。大きな麩が入っていて、これに汁がしみこんでいるので、汁の真価がわかる。
- ・ ちなみに、これまで食べたラーメンで一番美味しかったのは、福島県白河の醤油ラーメンだ。地元の人に連れて行って



もらった店だが、店名は失念した、確か池のある公園の近くだったとうろ覚えている。夕方だったが、学校帰りの高校生がたくさん同席していた。夜は居酒屋にもなるといっていた小さな店だった。ここの、縮れ細麺醤油ラーメンが絶品。

- ・ラーメン信月の醤油ラーメンはこれに次ぐ2番手だ。
- ・隣に座ったラーメンというより麺類全般が好きな孫は、塩ラーメンを食べながら美味しいといって、完食した。
- ・同時に頼んだ餃子は、不味くも無く、さりとして格別美味くも無い普通の味だった。



・ラーメン屋を出ると、道向かいに「Bar Ba」なる看板あり。「立ち飲みです どうぞどうぞ」のぼり旗が出ている。開店準備で掃除をしていたマラしき女性は看板にたがわず婆であった。孫と同行なのでそのまま帰ったが気になる看板の店ではある。

スシキノで  
ラーメン探しの  
夜の秋

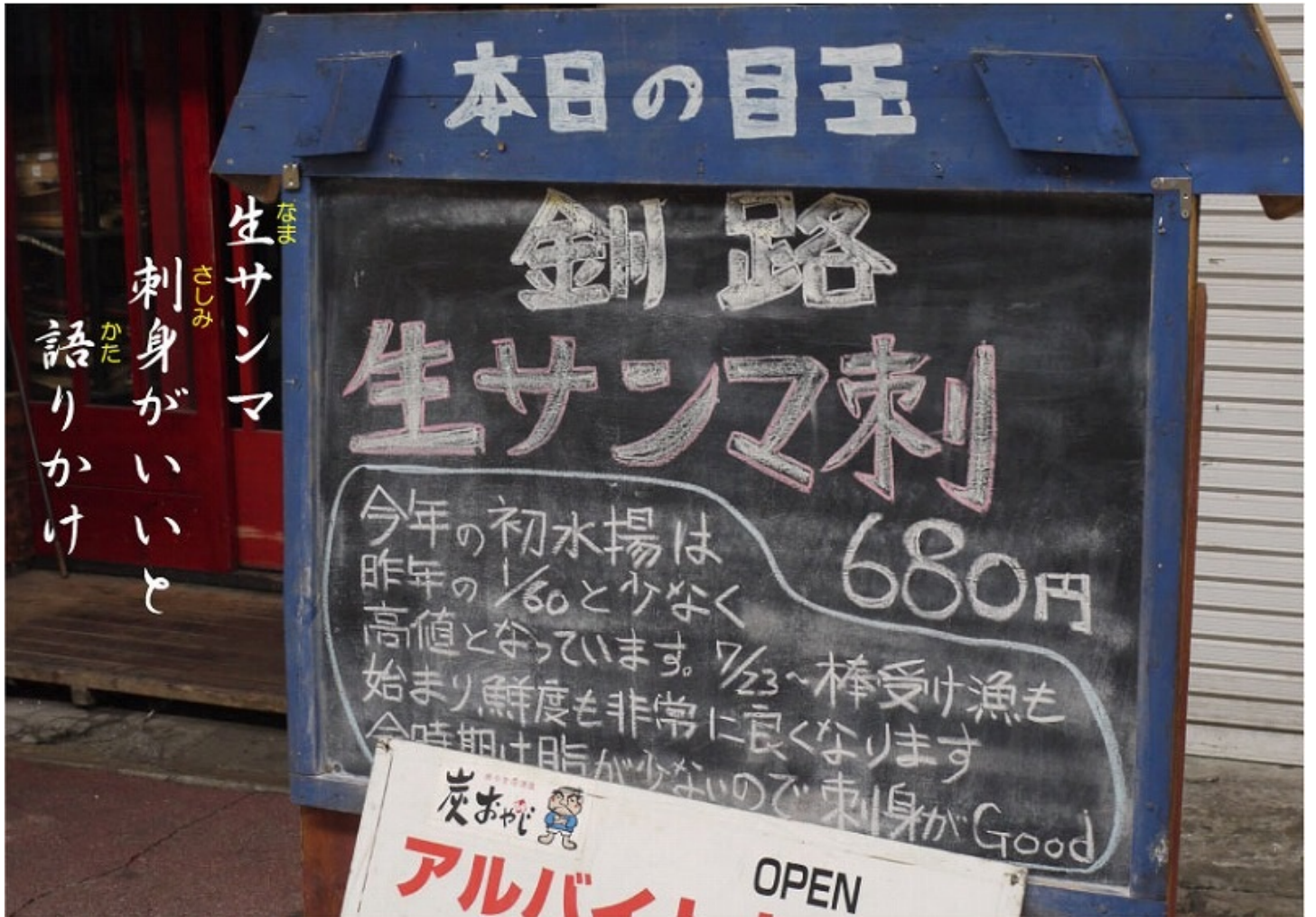
2012-09-2



- ・早朝、孫と散歩。ホテルを出て、狸小路経由で大通り公園を通過して帰るルート。
- ・途中、タクシーで戻りたいと言出した孫に、サイフを持ってこなかったと嘘をいい、お金が落ちているかもしれないという、自動販売機を見つけては、探しながら歩く。
- ・すると、1円を見つけて自信を持ったのか、落銭探しに熱が入る。
- ・狸水掛地蔵なる社あり、拾った1円を入れて願い事をすれば、いいことがあるよと、勧めるが、孫は、せっかく拾った1円が惜しくて、なかなか入れない。誰に似たやら、お金に執着するヤツだ。やつのこと、入れてなにやら拜んでいる。何を願ったのかと聞くと、内緒だという。
- ・途中、足が痛いからおんぶしてくれと、せがまれたが、最近体重が増えた孫をおぶるなどとうてい出来ない。逃げ回り、なだめすかして、約1時間の散歩を終えた。

躊躇して  
賽銭投げる  
狸かな





- ・早朝、狸小路を散歩中、居酒屋の看板に見入る。
- ・今年のサンマの初水揚げは少なく、例年の60分の1だという。棒受け漁も始まり鮮度もいいという。まだ、脂が少ないので刺身がGoodとある。
- ・昨日、居酒屋で食べた焼きサンマはほどほど脂がのっていて美味かった。今回、寿司を食べ損ねたので、帰路、新千歳空港内で回転寿司を食べた、サンマの握りがうまい。3貫食べた。
- ・それにしても、新千歳空港は大きく変わっていた。朝から雨だったので、早めに空港に着き、空港内の温泉（新千歳空港温泉 万葉の湯）に入り、ドラえもん（ドラえもん わくわくスカイパーク）とシュタイフ社の動物のぬいぐるみとのふれあいをテーマにしたミュージアムを見る。
- ・映画館もあり、パイオハザードVリトリビューションをやっていたので観たかったのだが、残念ながら出発の時間に間に合わずパス。
- ・雨の日の最終日は、早めに、ここへ来て過ごすのが一番だ。

## 生サンマ

刺身がいいと

語りかけ

(追記)

- ・狸小路にあったフラワースタンド兼ベンチ  
ベンチを使わない時は上げておけるのがいい。



2012-09-23





・撮影地＝伊豆市白岩

曼珠沙華

土手いちめんを  
赤に染め

2012-09-23





撮影地=伊豆市修善寺

曼珠沙華  
赤と白とで  
競い合い

2012-09-23





撮影地=伊豆市修善寺

赤を足す  
黄と緑野に  
曼珠沙華

「曼珠沙華  
寿の墓への  
一里塚」

・実際の情景ではなく、イメージの情景なので、この句に写真なし

[2012-09-23](#)



- ・ 書斎から裏庭を写す。
- ・ 夏みかんの青い実も大きくなってきた。原木しいたけも潤いを与えた。たらの芽が葉を伸ばしている。
- ・ 朝からの雨で、気温が下がった。そろそろ夏掛け布団では寒いのではと掛け布団を出し、マットレスを敷く。

秋分や  
雨降り続き  
夜具を出す

[2012-09-24](#)





大蜘蛛が  
益虫なりと  
威張りおり

- ・雨の翌朝、畑のあちこちに、蜘蛛が巣を張っている。
- ・蜘蛛は害虫を捕獲する益虫だが、もっと早くから害虫駆除に精をだしてもらいたかった。
- ・気温が下がり（今朝は19度）、膚を刺す虫もいなくなった。
- ・いじめっ子がなくなってから、威張りだす、気の弱くて大きな身体をした年上の子のようだ。

大蜘蛛が  
益虫なりと  
威張りおり



- ・中伊豆体験農園、駐車場側の入り口を入る土手下に、今年もジンジャー（生姜）の白い花が咲き始めた。
- ・帰りには、ぜひ、迂回してここに来て、顔を寄せて、香りを楽しんでください。
- ・白い野ばらの香りは、清楚な少女のようなのに対し、白いジンジャーの香りは清楚だが、内に熟女の魅力を秘めた淑女のようだ。

ジンジャーの  
香に誘われて  
回り道

[2012-09-24](#)





(長者が原農園日誌)

- ・春に畑の隅に種を蒔いたコスモスが勢い良く成長し、秋桜の名にふさわしく、花をいっぱい咲かせている。
- ・その中に珍しい花弁を持ったコスモスを見つけた。花弁が筒状になった品種だ。花の姿もいい。
- ・種を取って増やしてみたい。

コスモスの

新種見つけて

種探し

[2012-09-2](#)



(長者が原農園日誌)

- ・ ネットで北海道から花豆を取り寄せ、半分畑に蒔き、半分食した。
- ・ 夏の盛りから、秋口まで、続々に赤い花を咲かせて楽しませてくれた。
- ・ 実はそこそこあったのだけれども、大きくならなかったり、朽ちて落ちたりして、残念ながら収穫にはいたらなかった。
- ・ 北海道や群馬の高原で採れる豆なので、今年の暑さに耐え切れなかったのかもしれない。
- ・ ごくろうさんと心の中でツブヤキながら、畑から撤去した。

花豆や  
花を愛でて  
終りけり

2012-09-26





冬瓜とうがんの  
重おもさに負まけて  
支柱折しきゅうおれ

(大仁ふるさと農園日誌)

- ・ミニ冬瓜の苗を1本植えただけなのに、今年はたくさん収穫出来た。
- ・キュウリなど他のウリ科の作物がウリバエに食害されて、枯れて終わったのに、まだ、青々とした葉を茂らせ、実を大きく重く成長させている。
- ・そのため、ミニとは言いがたいほどに大きくなった冬瓜がぶら下がって、その重みに耐えかねて、支柱が折れてしまった。
- ・冬まで保管がきくから冬瓜という名前が付いたといわれるが、そう多く食べる気がしない野菜のひとつではある。
- ・ネットでレシピを調べても、あまり料理の種類が出てこない。
- ・冬瓜を砂糖を加えた水で煮込んだものが、台湾で茶の一種として飲まれているそうだが、一度チャレンジしてみたい。

冬瓜の  
重さに負けて  
支柱折れ

## 苦瓜（ニガウリ）



（大仁ふるさと農園日誌）

- ・ゴーヤ（苦瓜）の最後の1本が寂しげに垂れ下がっている。
- ・何度かゴーヤチャンプルにして食べたが、もういいや、と思っているのに、もう終わりかと思っていたら、隠れていた実を発見することがママある。
- ・毎朝作っている生ジュース（ニンジン+りんご+ケール）に、少し入れてみた。思ったより苦くない。ということで、ジュース用に使えることがわかり、ゴウヤは、まだ、そのままにしている。



苦瓜が  
生ジュースにて  
生き残り

2012-09-27



・大仁ふるさと農園に隣接する沼地化している休耕田に蒲が生い茂っている。蒲の穂が出揃っている光景は秋の風物詩である。

・少し、いただいて、行きつけの Snackbar や知人に持って行って、点数を稼いでいる。

・私以外にも刈る人がいるようだが、採るのは、なるべく、必要最小限度にしておきたいので、詳しい場所は割愛する。

・昨年、蒲の穂を車に入れ忘れて、数日おいていたら、穂がはじけて、綿毛が車内に飛び散り、往生したことがある。蒲は綿毛種で増えるのか、それとも地下茎で増えるのだろうか？

・2種類の大きさの蒲があるのだが、今年は、大きい方を、穂が出る前に刈られてしまったようで、少なかった。

## 蒲の穂が

天下を取りし

休耕田



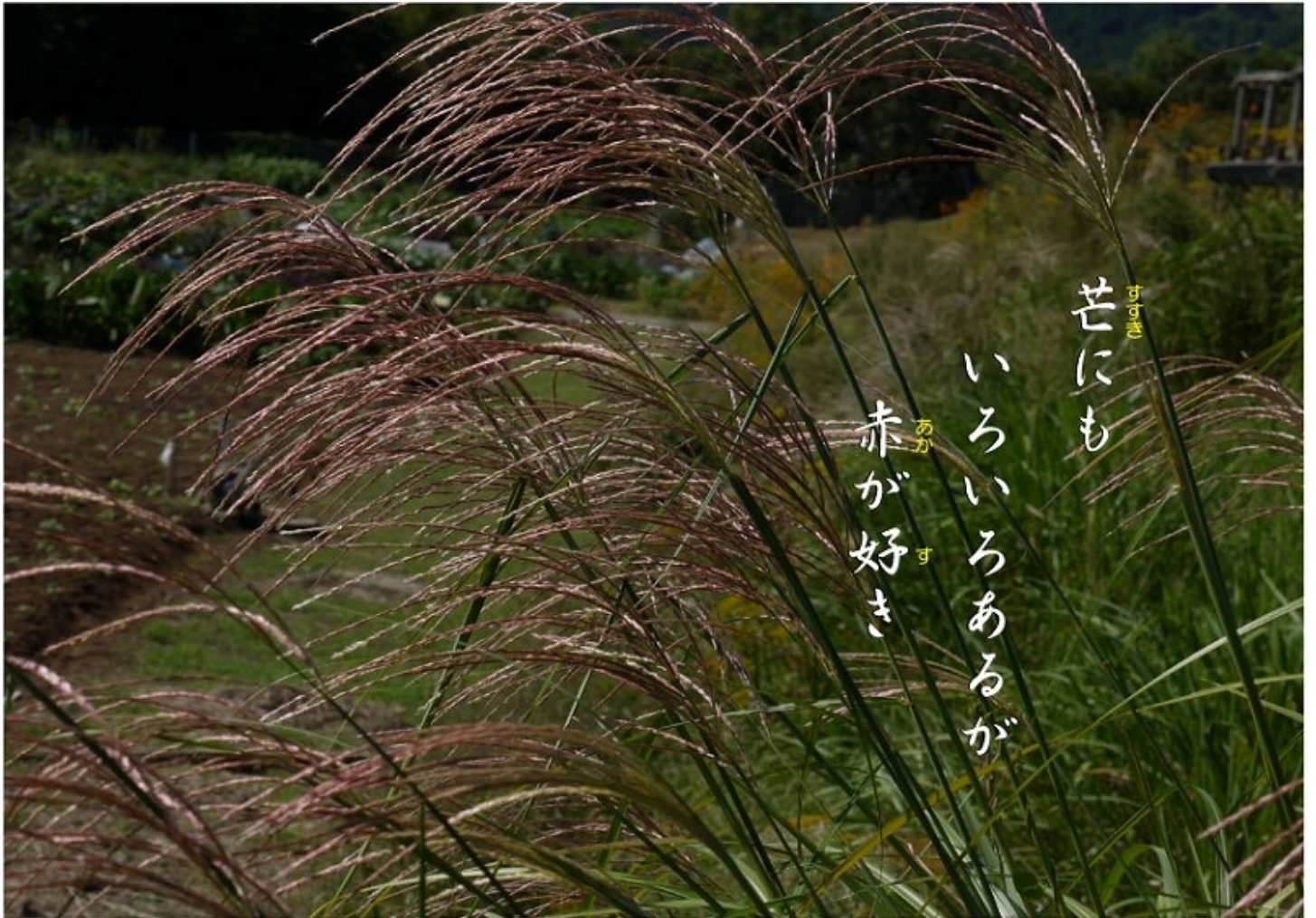


- ・ご飯の艶が上手く写っているかな？炊きたての新米ご飯が艶びかりしていて、米粒が立っている。
- ・農園をお借りしているMさんから、先日、分けていただいた新米を精米し、土鍋で炊いていただいた。
- ・予想どおり、美味しい！の一言！。こんな美味しいお米を食べたのは、20年ほど前に、新潟瀬波温泉の某旅館で食べた朝ごはん以来だ。あの時は、妻が、旅館主に頼み込んで、お米を分けていただいたほどだ。お米は、翌日、その旅館に入れている近所のお米やさんが届けてくれた。たしか、魚沼産のコシヒカリだった。
- ・Mさんは、毎朝必ず、畑を一回りしてから、出勤していた。小生は、毎朝、生ジュース用の人参とケールの葉を収穫しにいて、挨拶していたので知っていた。まるで、わが子を慈しむように、丁寧にそだてていた「コシヒカリ」なのだ。そうして育ったお米が不味いはずがない。しかも、自家用米なので、減農薬栽培。
- ・お話を聞くと、昨年度米も少し残っているという。玄米の形で温度管理された貯蔵庫に置いてあるということなので、こちらも格安で、分けていただいた。低温精米した方がお米は美味いと、彼に聞いたので、いつもは自宅の家庭用精米機でつくのだが、コイン式の自動精米機で白米にした。
- ・スーパーなどで売っているコシヒカリは他の品種も混ざっていると聞く。ストレートの「コシヒカリ」を低温精米し、土鍋（長谷園製）で、しかも、水は大沢里の地下深層水を使って炊いた。
- ・新米ご飯には、おかずは「塩辛」だけでいい。「塩辛」は、もちろん、宇佐美の干物屋が作った手作りの一品だ。普通は1杯にとどめているのだが、思わずお代わりしてしまった。日本人に生まれて良かった！と思う瞬間だ。
- ・残ったご飯でオニギリを作り、畑で食べる。これも美味しい！もう、コンビニのオニギリなんて、食べられないな～。
- ・アメリカに住む孫に送ってやりたいが、現在、全ての食品類を送ることができなくなっているので、残念だ。11月に会いに行く予定なので、他のお土産を割愛してでも、このお米を持てるだけ持って行ってあげようと思う。

新米は

塩辛だよと

お代わりし



- ・ススキが各所で穂を出している。
- ・ススキ（芒、薄）と一言でいっても、よくみると色合いが様々だ。種類で異なるのか、生えている場所（環境など）で異なるのかはわからないが、若い娘の髪のように、艶があって、穂から出たてが赤い種類がいい。
- ・白髪然としたススキは、老婆に似て、遠めがいい。
- ・箱根仙石原のススキの見所は、穂が出払った終わりのころが広がりがあるといい。毎年のように行っていたが、最近感動が薄れたので、今年は割愛した。
- ・宇佐美に住むようになった当初、飲み屋で知り合ったSさん。彼からのつながりで、地元によくの知己を得ることができた。彼が主宰する「巢雲山に桜を植える会」にも参加させていただいた。
- ・年4回、巢雲山に登り、頂上付近に生い茂った萱（ススキ）を刈り、桜の苗を植え、鹿などの食害防止にネットに囲む。下山すると、彼の店（干物店）でバーベキューとなる。肴が足りなくなると、冷蔵庫から干物がいくらでも出てくる。ボランティア活動兼飲み会である。
- ・その、彼が一昨日、享年65歳で亡くなった。桜が咲いた巢雲山で飲む夢も果たせずに……。お世話になりました。ありがとう、合掌。

芒にも

いろいろあるが

赤が好き





(伊豆の国市 長者が原にて)

- ・休耕田に、萱などの雑草が生い茂っている。
- ・特殊な草刈装置を付けた大型トラクターに乗った若者が、休耕田を整備している。
- ・瞬く間に、草が刈られ、チップ状に碎かれる。この装置なら、灌木など硬い木でも簡単に処理できる。
- ・作業が終わった休耕田に、コスモスが残されていた。隣の大仁ふるさと農園から飛んできたか、鳥に運ばれた種が自然に芽吹き、花を咲かせたようだ。
- ・若者の優しい心根が伝わる風景が残った。

コスモスを  
刈り残したり  
休耕田



(伊豆の国市 長者が原にて)

- ・ 稲刈りの真っ最中だ。
- ・ 多くは、自家消費米で、土日に、一家総出で作業する例が多い。
- ・ 子供たちにとっては、遊び場が広がる時期でもある。
- ・ 畑の端の電柱を利用して、長いブランコが設置された。子供たちが嬌声をあげながら、高い空に向かってこぐ。
- ・ 稲刈りが終わって、ブランコが、風で微かに揺れている、のどかな田園風景だ。

## 稲刈りの

喧騒残して

遊具ゆれ





（長者が原農園日誌）

- ・先日作った雨水用水タンクだが、水が満タンに入ったとたん、下板が下がってしまい、出口が上を向いてしまったため、水が出なくなって失敗。
- ・早く直そうと思っていたのだが、所用にかまけてのびのびになっていた。
- ・ところが、台風直撃のニュースが流れたので、急遽、修繕することにした。
- ・外側のパネルを外し、タンクを出して、下板を太いものに代えた。
- ・これで、台風を凌げることを祈るのみ。

台風に

備えて直す

水タンク





(長者が原農園日誌)

- ・台風来襲の報を聞き、やっと、背が伸びてきたヤーコンの周囲を支柱で囲って、倒れるのを防ぐ。
- ・支柱の竹は、先ごろ、インゲン豆の蔓を取りは外した時に、大量に出たものを使用。
- ・ヤーコンは、もう少しで収穫期を迎える。
- ・頑張れ！ヤーコン！

ヤーコンに

支柱廻らし

台風(かぜ)を待つ

2012-09-30





（長者が原農園日誌）

- ・コスモスが盛りを迎えているのに、台風直撃のニュースが流れている。
- ・コスモスにはもう少し頑張って、咲き続けてもらいたいので、支柱とビニール紐で括った。
- ・図体が大きいので、これが役立つかどうか不安ではある。

コスモスを  
強く括りて  
台風（かぜ）を待つ

2012-09-30





（長者が原農園日誌）

・先日から畑の隅に制作していた堆肥小屋。床板と周囲板を貼る段階になっていたが、台風来襲の報を聞き、工事を中止、板をまとめて柱に括りつけた。

台風で  
工事止めたり  
堆肥小屋

[2012-09-30](#)



## 台風（トマト覆い）



（大仁ふるさと農園日誌）

- ・ 昨年の台風では、トマト覆いごと、支柱が飛ばされたので、今回の台風に備えて、大仁ふるさと農園と、中伊豆体験農園のビニール囲いを全て外した。
- ・ トマトは、今でも、毎日、トマトジュースをコップ1杯作れる程度に採れているが、今回の台風でどうなることやら。でも、だめになったらなつたで、腐れ縁の夫婦の別れのように、あきらめもつくだらう。

台風

準備

外す

雨覆い

2012-09-30



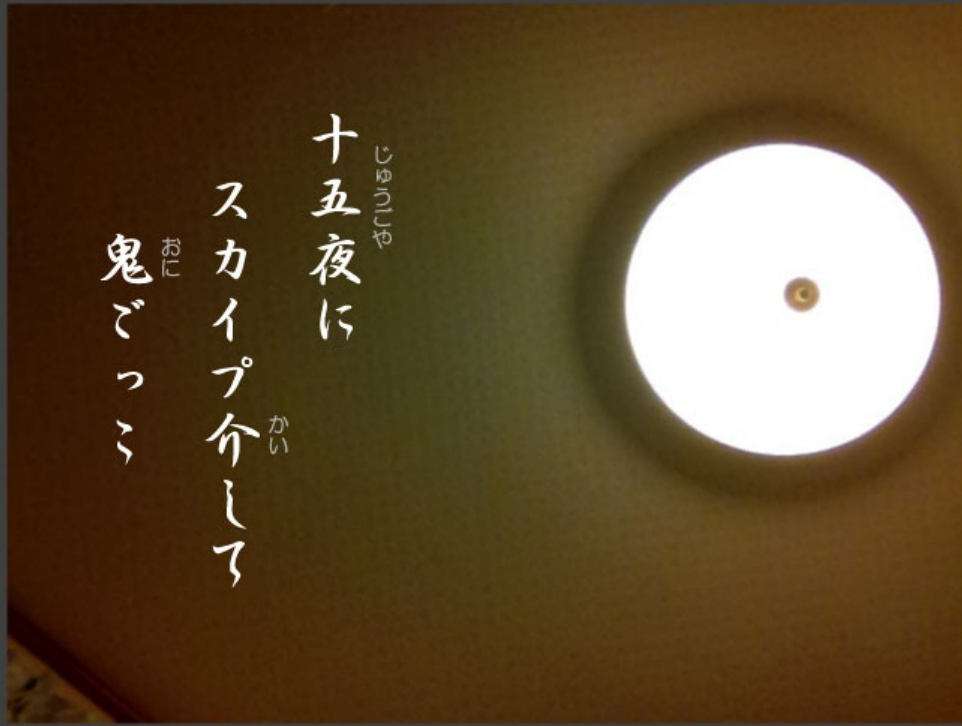
- ・台風17号による、畑での被害はほとんどなかった。
- ・前日に修理した水タンクシステムに水が全く溜まっていない。
- ・調べてみると、タンクのコックを開にしたまま、帰っていたことが原因とわかった。
- ・最近、とみに、注意力が散漫になっている。
- ・5歳の孫娘と久しぶりにスカイプをする。
- ・鬼ごっこをした。途中で疲れたので、ipadを上に向けて、椅子に座ったままで隠れたことを装ったが、見破られてしまった。天井の照明が写っていたので、ジージはズルをして、隠れずに、だだ、ipadを上に向けただけだっと思破られた。
- ・キンダースクール（幼稚園）で、月見の貼り絵を作ったとのことで、カメラに向けて写してくれた。十五夜のことも習ったとのこと。日本は、今日（日曜日）が十五夜だけれど、アメリカは明日だねとしばし、十五夜談義。アメリカで見る月も、日本で見る月も同じだよという彼女。いつの間にか、幼児を卒業、知恵がついたことに感嘆！
- ・キンダースクールでも、宿題が出るとのこと。そのうち、算数なんか教えられなくなるとバカママが言う。ジージが、スカイプで教えてやるよ。
- ・ともあれ、一日遅ればせながら、孫娘も観ているであろう月に、彼女の成長を祈念しての月見酒とあいなった。

## 台風で

一日遅れの

月見酒





十五夜に  
スカイプ介して  
鬼ごっこ

[2012-09-3](#)

Photo俳句(2012-09 No.01)

<http://p.booklog.jp/book/58083>

著者：井上勝彦（陽香庵百合樹）

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/atec/profile>

発行日 2012年10月20日

発行元 （有）日本ジャーナル社

住所 414-0001 静岡県伊東市宇佐美3629-52

電話 042-563-6961

<http://p.booklog.jp/users/atec>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/58083>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/58083>